又ハ寄留何某
子弟妻女同居
某
明治何年何月何年何ケ月
スルコヲ許可
日數何日間ト
ヲ直ニ其地ノ
シテ滞滞シタ
ノ證書ヲ請ヒ
旅券ニ副ヘ速

旨モ有之候處郡區編制地方職制更定相成候ニ付テハ該廨伺届ノ内郡區長又ハ戸長ノ取扱ニ屬スルモノハ該公達ニ準シ郡區長又ハ戸長處分ノ上其旨本籍郡區長又ハ戸長ニ通報可及義ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十五年三月廿八日　　内務卿山田顯義

叙任賞勲

○三月廿八日分

任參事院議官補　農商務權少書記官　久保田貫一
任外務書記官　宮内權少書記官正七位田中建三郎

公判

○裁判言渡書

原告　東京府下南葛飾郡西一ノ江村二千四百七十五番地平民　藤ケ谷　平信
仝府京橋區彌右衛門町四番地　小川　盛重
右代言人　東京府下南葛飾郡上今井村百七十五番地平民　頼本六右衛門
被告　仝府仝郡仝村七百五十二番地平民　増田　吉五郎
被告

損害要償ノ訴訟審理處原告代言人訴フル要旨ハ原告ハ佐久間長四郎ナルモノヨリ立替金請求ノ訴訟ニ係リ甲一號証ノ如ク確定裁判ヲ受ケ終ニ該立換金ヲ擁フニ至リ其被告カ受領ノ事ハ甲三號証ニ明カナレハ該金幷ニ之ニ關スル損害金ト又被告カ數多ノ僞証書ニ由リテ佐久間長四郎ヲシテ無故ノ訴訟ニ原告ヲ係累セシメシニ起ル損害金等其精算書ノ如ク要求スルト言フニ在リ被告答フル主旨ハ被告ハ既ニ明治十三年中原告ヘ証文ヲ入レ原告ト辯方ヲ爲セシモノナレハ今更其請求ニ應スヘキ理由ナク又原告ニ對シ不正ノ所爲ニ及ヒシフナケレハ本訴ニ難應ト言フニ在リ

然シテ本訴ノ要旨ハ長四郎ニ於テ甲三號証ノ金ヲ被告カ爲ニ受領セシヤ否ヤ又被告等ノ正當ノ權利ヲ有セサルニ長四郎ヲ其代人ト爲シ無故ノ訴ヘヲ爲シ原告ニ損害ヲ被ラシメシヤ否ヤニ在リトス

依テ之カ始審裁判ヲ下ス如左

佐久間長四郎ニ對シ甲三號証ノ如ク被告カ立替金ノ受領証ヲ與ヘシ上ハ其被告カ領收セシハ明瞭ナルノミナラス現ニ長四郎カ原被間ニ仲裁トナリテ該立替金ヲ原告ノ爲メニ被告ニ拂ヒシトテ甲一號証ノ如ク長四郎カ本訴原告ノ爲メニ代償セシ金員ハ長四郎ニ返濟スヘシトノ確定裁判アリシ上ハ固ヨリ長四郎カ原告ノ爲メニ代償セシ事確定セシカ故ニ被告ヘ對シ原告カ之ヲ求ムルハ當然ナリトス然シテ被告カ無根ノ詞訟ヲ構ヘ原告精算書ノ如ク損害ヲ被ラセシ事ハ甲二四號証ニ判然被告カ自白スル處ナレハ被告ニ於テ固ヨリ其責任ヲ負擔スヘキモノニシテ該四號証ハ只原告カ被告ノ謝罪ヲ鵜キシニ止マリ其損害要求ノ權ヲ棄テシモノニ非ストス如斯理由ナルニ依リ被告ノ抗辨ハ不相立ニ付被告ハ速ニ原告要求ノ金百四十二圓五十四錢六厘完濟スヘシ

但シ訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

明治十五年三月二十五日　　東京始審裁判所

○東京控訴裁判言渡書案

原告　静岡縣駿河國庵原郡町屋原村及ヒ今宿村漁夫八十八名總代兼右町屋原村原平三郎外一名代言人府下京橋區日吉町十八番地寄留静岡縣士族　時行
被告　静岡縣駿河國富士郡中丸村平民　味岡唯平　森田太助代言人東京府神田區南神保町拾四番地平民　角田　眞平

規定書取消ノ訴訟静岡裁判所ノ裁判不服ノ如訴審判スル左ノ如シ

抑モ原告第一號証論綱御爲取替規定書ヲ執テ從來ノ慣行ニ背ク事柄ナリト主張スルニ依リ原告ニ於テ該規定書ヲ聞諾スルカ否之ヲ審判スルニハ事ヲ此點ニ就テ論駁セサル可カラス今ヤ原告ハ始審被告ト迫被告即チ扣訴被告トノ間ニ在テ該規定書ヲ交換セシ明治九年十月後モ尚ホ從前ノ通リ夜縄ヲ下ロシタル旨陳述シ又原告ハ明治十二年中聊カ爭論ヲ爲スヨリ明治十三年十二月廿九日迄ハ葛藤ヲ生セサル旨陳述シ已レ等カ聞諾セサル規定書ナルヿヲ証スト雖ニ被告於テハ折角取結ブ規定書ナシテ無用ニ屬セシムル譯合ナケレハ之カ履行ヲ求ムルハ必然ニシテ其履行ヲ求ムル以上原告カ夜縄ヲ下ロスヿヲ見テ差止サル筈ナク既ニ夜縄ヲ差止ムル以上葛藤ヲ生セサル筈ナキニ付原告ノ陳述ハ事理ニ適セサル者ナラズヤ然レハ葛藤ヲ生ズル必スヤ痕跡無カル可ラズ然ルニ被告第一二號証ノ外其痕跡ヲ見サル限リ原告ハ從來ノ慣行ヲ更革シテ爾後夜縄ヲ下ロサヽル者ト看做サヽルヲ得ズ而シテ從來ノ慣行ヲ更革スルハ是レ其契約ヲ認諾スルノ効果ニ非スシテ何ソヤ然ラハ該契約ニ於ル其始メハ縱ヒ私擅ニ成立ツコトモセヨ今更之ヲ口述トシテ取消シヲ要スル筋合ナシトス因テ原告ノ訴意相立サルヿハ始審裁判ノ通リタルベク且ツ訴訟入費ハ原告ニ於テ辨償ス可キ事

東京控訴裁判所
判事　寺島　直
仝　岡村　輝彦
仝　倉町　真重

明治十五年三月廿四日

時事新報

言論自由之說

國會愛ニ開ケ黨派政治ヲ爲ルトハ兩黨各其主義トスル所ヲ守ヲ相互ニ駁擊辨論シ天下ノ人心其二方ニ歸スルモノ多ケレハ其政黨ハ即チ多數ヲ得タル者ニシテ政府ニ地位ヲ占ムヿ可シ然リト雖ニ凡ソ政治ノ主義ニ完全無缺ノモノアルヿ可ラサレハ仮令ヒ甲ノ黨派カ政府ニ異ルモ乙ノ黨派モ亦決シテ消滅スルニ非スシテ駁擊辨論ハ到底止ムノ日アル可ラズ黨派政治ハ永久無限主義ノ害論ヲ生ト知ル可シ抑モ政治ノ主義ハ其範疇ノ跡ヲ見ルニ非サレハ之ヲ知ル可ラズ而シテ其跡ノ直ニ外面ニ顯ハレテ天下公衆ノ耳目ニ觸ルヽモノハ今ノ政府ニ於テ唯公布ノ文ノミナレニ公布ノ文ハ至極簡單ナルモノニシテ此白文ヲ見ルモ其主義ノ在ル所ヲ詳ニスルニ足ラズ例ヘハ政府ニテ租税ノ事ニ付キ又宗教ノ事ニ付キ向後地税地方税ヽ云々神官僧侶ハ云々ト公布スルヿモアランニハ預メ諸省諸局ニテ商議ノ喧シキヤ推テ知ル可シ一タヒ提出シタル議案ハ廣案ト爲リ既ニ廟シタルモノハ復タ重テ出現スル等時日ヲ費シ精神ヲ勞シテ始メテ一片ノ布告文ヲ作リ出タスヿニシテ數行ノ公文モ其草案ハ五車ニ滿ルト云フモ可ナラン政事ヲ慎ムヿハ斯クコソアル可キヿナレ決シテ怪シムニ足ラズト雖ニ其發令ヲ斯クマデニ鄭重ニシナガラ人民ノ耳目ニ觸ルヽモノハ唯數行ノ公文ノミニシテ其合ヲ發シタル所以ノ理由ハ之ニ告ケザルノ風ナリ之ヲ書ケサレハ之ヲ知ルニ由ナシ之ヲ知ラサレハ唯數行ノ見解ヲ下タスノ

キノヨ凡ソ人事ノ組織シテ交際ヲ成ルモノハ臆測ニ
リ甚シキモノナレ其甚シキノ極ニ至テハ親友ヲ變シ
テ讐敵ト爲スモ容易ナルコアリ故ニ今人民ガ政府ヲ
見テ之ヲ惡トシ又非トスルモ悉皆其臆測ニ出ルコナ
レバ仮令ヒ政府ニ如何ナル誠意誠心アルモ決シテ其
誠ヲ貫徹ス可ラズ唯滔々タル天下ノ衆口ニ任シテ自
由自在ニ評ヲ下タサシムルノミ或ハ法ヲ以テ其妄評
ヲ禁セントスルモ之ヲ禁スルコ愈甚シケレバ其評論
ハ唯隠伏スルノミニシテ勢力ハ却テ愈甚シキヲ致ス
側ヘバ絶版ノ書ノ竊ニ流行スルガ如ク停止ノ新聞ノ
益盛ナルガ如ク犯罪演說者ノ名望ヲ博スルガ如シ人
情奇ヲ好ムノ定則ニシテ之ヲ如何トモス可ラズ斯ル
事ノ次第ニテハ政府ニ於テハ到底其曲ヲ伸ハスノ路
アル可ラサルナリ

政府ガ人民ニ對シテ施政ノ趣意ヲ告ケサルノ不利ナ
ルコ斯ノ如シ理由ノ最モ瞭易キモノニシテ我輩ノ毫
モ疑ヲ容レサル所ナルニ今日ノ實際ニ於テハ未タ之
ヲ告ルノ路ヲ得ズ遺憾ニ堪ヘサルナリ或ハ專斷決行
ノ政体ニシテ上ノ行フ所下コレヲ仰キ見ヨト覺悟
ヲ定メタル政府ナレバ今ノ如クナルモ亦謂レナキニ
非サレド明治政府ハ專斷決行ノ政府ニ非ズ未タ人民
ニ促サレズシテ先ツ府縣會ヲ起シ又郡區會ヲ設ケ公
然タル民權擴張ノ旨ヲ明ニシテ又一方ニハ雜誌新聞
等ノ發行ヲ奬勵シ新聞ノ原稿ヲ郵送スルニハ稅ヲ免
シ新聞紙ヲ配達スルニモ其稅ヲ寛ニスル等專ラ人民
ノ思想ヲ述ルニ便ニシテ其交通ヲ速ニセシムルハ唯
政府ヲ上ノ施政ヲ仰キ見ヨトノ旨ニ非サルヤ明ナリ
然ルニ專斷決行ノ政府ニ非サルヤ明々白々ナリト云フ
可シ然ルニ今人民ニハ此便利ヲ許シナガラ政府ハ却
テ自ラ之ヲ利用セサルハ何ソヤ試ニ彼ノ府縣會ヲ
見ヨ衆議員ハ議場ニ於テ自由自在ニ辨論シテ尚足ラ
サレバ場ヲ去テ公然タル演說會ヲ開キ又ハ得意ノ新
聞紙ヲ利用シテ遺ス所ナキノ有樣ナルニ府縣廳ヨリ
臨席スル官吏ノ答辨員ナルモノハ固ヨリ議員ニ命ス
ルノ權ナシシテ唯ニレニ答辨シ其原案ヲ維持シテ力
足ラズ[illegible]ノ外、何等ノ方便アル可ラズ議
場ノ外ニ出テ、其原案ノ旨ヲ演說セントスルモ法ノ
禁ニ[illegible]ルガ如シ[illegible]ノ如キ次第ニシテ我輩ニ於テ
[illegible]
此一事ニ[illegible]縣會ノミニ止マラズ國會開設ノ大
期ニ[illegible]ヨリ後ハ今ノ政府ハ果シテ如何ナル
性質ヲ帶ブルヤ在野ノ有志者ガ[illegible]
[illegible]ル可キ[illegible]自然

ノ勢ニシテ或ハ之ヲ在朝ノ政黨ト云フモ可ナラン既
ニ政黨タルトキハ其施政ノ主義ヲ明ニシテ之ヲ人民ニ
告ケ明治二十三年ニ至ルマテ今ノ政府ヲ維持シテ同
其後モ之ヲ特續セントヲ勉メテ其方便ヲ求ルコソ政
治家ノ本分ニシテ又其人ノ本意ナラン而シテ其方便
ハ如何シテ可ナラン唯政府施政ノ主義ヲ詳ニシテ之
ヲ口ニ述ヘ紙ニ記シテ天下衆庶ニ示スニ在ルノミ一
片ノ公布文ヲ發行スルニモ其發行ノ前ニ民情ハ斯ノ
如シ、政府ノ都合ハ斯ノ如シ、斯クナルガ故ニ施政ノ
方向ハ斯ノ如クセザル可ラズ云々ノ趣意ヲ述ヘテ普
ク民心ヲ誘導シ、既ニ發令ノ後モ尚其緊要ナル部分
ノ精神ヲ釋解シテ或ハ演說ニ或ハ新聞ニ之ヲ說明シ
之ヲ辨論シテ人民モ始メテ政府ノ主義ヲ明知スルヲ
得ベシ既ニ其主義ヲ明知スレバ或ハ之ヲ贊成スル者
モアラン或ハ駁擊スル者モアラン其駁擊ハ取リモ直
サス政府ノ政ヲ駁擊スルモノナレバ穩カナラザルニ
似タレド元ト是レ主義ノ駁擊ナレバ恰モ在朝在野ノ
兩政黨互ニ鋒ヲ爭フモノニシテ其成敗ヲ決スルハ民
心ノ向背如何ニ在ルノミ人民一般ノ所見ニテ在野ノ
政黨ヲ贊成シテ之ニ服スレバ則チ政府ハ眞實人望ヲ
失フタルモノナレド或ハ然ラズ其主義ノ詳ナルヲ聞
ヒテ大ニ之ニ感服ス可キヤモ計ル可ラズ若シモ然ル
トキハ政府ハ公明正大ニ政ヲ施シテ左顧右眄スルコナ
ク進テ大ニ爲ス可キナリ何ソ物論ノ喧シキヲ恐ルヽ
ニ足ランヤ何ソ民權家ノ喋々ヲ憚ルニ足ランヤ或ハ
政府ヨリ新聞社又ハ演說者等ヲ使用スルコモアラバ
其當局者ハ公然ト看版ヲ掲ケテ我レハ今ノ政府ノ御
用新聞ナリ又御用演說者ナリ今ノ在朝政黨ノアラン
限リハ其器械ト爲リテ政府ノ主義ヲ保護シ或ハ數年
ノ後ニ至テ人心ノ向背ニ從ヒ政府ヲ擧ケテ他ノ黨派
ニ渡スコモアラバ其黨派ノ敵ニシテ即チ其時ノ政府
ニ反對スル者ナリト雖メ其身ノ出處ヲ明告シテ在朝
ノ人ト共ニ新聞ヲ記シ又之ト共ニ演說シ公明正大ナ
ル政府黨タランニハ世間ニモ之ヲ見テ贊成スル者モ
多カラン又攻擊スル者モ多カラン何レニモ敢ト昧方
トノ分界明白ニシテ其議論ハ自カラ實際ノ細目ニ亘
リ互ニ猜疑ノ念ヲ斷テ相共ニ白晝ノ論壇ニ上ル者ト
云フ可シ但シ此一段ニ至テ特ニ注意ス可キハ法ヲ寛
ニスルノ一事ナリ若シモ然ラズシテ今ノ條令ヲ今ノ
マヽニ在シ官民相對シテ相論スルトキハ官黨ハ恰モ條
令ノ利器ヲ擁スルノ姿ニシテ決シテ人民ヲ滿足セシ
ムルニ足ラズ却テ一層ノ困難ヲ增ス可キノミ

雜報

○大日本農會閉場　同會ハ去る二十一日より開會ア
[illegible]

て昨二十八日ヘ閉場の文を朗讀し玉へり
本會開場以來[illegible]ト盡セリ是畢其業ニ篤志ナヤ尚望ム所ハ厚ノ果ヲ結ハ各員數日ノ勞

大日本[illegible]

○共進會閉會式　一日閉會式を施行さり

○御陵墓取調　京寺の近傍い桓武帝餘年を經る古刹ものあるへしとて張を命せられ當時

○宴會　來四月一せられさる大日本係の官吏等を慰白川宮品川農商務

○上杉茂憲君　池入港の和歌浦丸

○大鳥圭介君　最池石炭山を今回欠ゝ工部技監大鳥

○裁判官辭職　横辭表を差出されま

○銀行組織調　大織方法を盡く取調

○縣官自殺　山形ありてか此程自宅

○警察使　府下各限り毎日曜日より事務多忙なるよ

○隅田丸の着港　隅田丸號い積荷の七十五名あるよし

○久保田貫一君　久保田貫一君い六名ゆ

○裁判所彙報　東京れ强盜上杉義三郎詐偽犯罪川島省一郎人又控訴裁判所い

日書記六名の新任